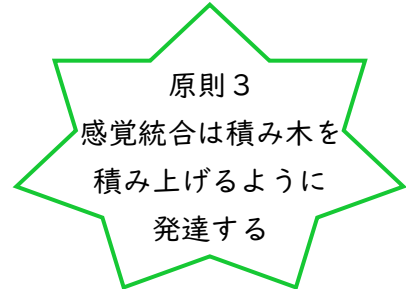
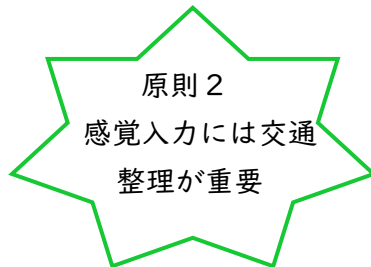




～じゅうにんという～

2021年度は自立活動係（支援部）として、自立活動の情報を毎月1回通信として発行していこうと考えています。忙しい毎日ですが、少しでも目を通して頂いた後に、先生方の授業実践への一助となれば幸いです。尚、1年間通して通信の題字とイラストを高等部のN先生に協力して頂きます（色つけは生徒がしてくれます）！！

第一回は【感覚】のお話です **感覚統合理論における3原則**



「**感覚は脳の栄養素**」

感覚と聞いて思い浮かぶのはどんな感覚でしょうか！？

すぐに思い浮かぶのは、視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚の5感ではないでしょうか？

これらの他にも、固有受容覚（固有覚）【主に骨、筋肉への刺激】、前庭覚【主に揺れ、加速運動】という2つの重要な感覚があります。つまり、合計7つの感覚を栄養素にして脳は発達していきます。

エアーズ博士は、これらの7つの感覚の中で、特に重要な感覚として触覚・固有受容覚・前庭覚を挙げています。これらの3つの感覚については次号【**感覚入力には交通整理が重要**】で詳しく紹介します！！

（高等部のY先生の実践を紹介します！！）



【視覚】



【嗅覚】



【味覚】



【聴覚】



【触覚】



【前庭覚】



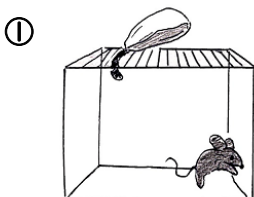
【固有感覚】

～**豊かな感覚は豊かな脳を育む**～ネズミを3つの条件で育てた実験

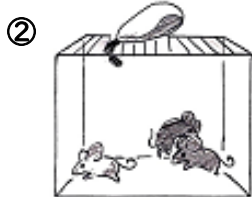
感覚が脳の発達において重要であることを示した有名な実験があります。（Volkmar&Greenough,1972）

- ① 乏しい感覚条件（狭い部屋+遊具なし+孤独）
- ② 一般的な感覚条件（狭い部屋+遊具なし+複数と一緒に）
- ③ 豊かな感覚条件（広い部屋+遊具あり+複数と一緒に）

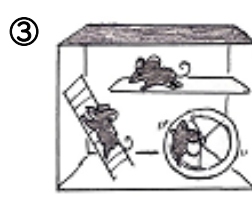
その結果、豊かな感覚条件で育てたネズミの脳は、乏しい感覚条件で育てたネズミの脳よりも約10%重くなりました。たくさんの感覚を刺激したり、楽しい経験をしたりができる授業実践をしたいものですね



【乏しい感覚条件】



【一般的な感覚条件】



【豊かな感覚条件】

【1年間を通じて参考にする書籍等】

①



②



①感覚と運動の高次化理論からみた発達支援の展開

学苑社

著：池畑美恵子

②子ども理解からはじめる感覚統合遊び

クリエイツかもがわ著：加藤寿宏、大久保めぐみ他